

# インドネシア人コミュニティの成立と現況 —大洗コミュニティにおける事例—

フィールドについて

大洗コミュニティ

# 大洗コミュニティ

- 茨城県東茨城郡大洗町(以下、大洗町)とその近郊には約400人のインドネシア人移住労働者が居住している。
- 報告者は2005年から大洗町のキリスト教徒インドネシア人コミュニティ(以下、大洗コミュニティ)に通い、同コミュニティ成員の日本語習得について調査してきた。

# 大洗町の位置



# 鹿島臨海鉄道 大洗駅



# 水産加工工場が目立つ町内





# 水産加工工場内



# エスニック食材の店





# 大洗コミュニティ(1)

- 1992年からのインドネシア人の流入によって徐々に形成(2002年頃がピーク)
- 水産加工業、農業に従事
- 北スラウェシ州ミナハサ地方出身者
- 宗教はキリスト教(プロテスタントが多数派)
- 家族・親族、同郷、宗教、言語による結びつきが強く、相互扶助の意識が極めて高い

# 大洗コミュニティ(2)

- 現在の勤務先は主に水産加工業、若干の農業関連産業(ごく少数の工場勤務、建築作業従事の例)
- 学歴は大半が高卒以上
- 30代が多く、40代、20代が続く

# インドネシア人キリスト教会

- ・大洗町内にある7つのインドネシア人教会が  
インドネシア人の紐帯  
民族文化の再生産  
就労や生活上の問題に関する相談  
信者間の交流や娯楽  
(さまざまな機能)  
→インドネシア人社会にとって必要不可欠

# 宗教活動についての語り

- ・元インドネシア人教会信者代表の語り:

大洗には4つもの教会がある。そこでの宗教活動だが、毎日会社で怒られても、一度教会に来れば、そのストレスは無くなる。そして次の一週間に耐えるだけの強さが得られる。教会では悩みを共有することが出来、カウンセリング的な要素がある。

# 大洗町の水産加工業の特徴

- 水産加工会社が約35社  
小規模工場が大半  
パートタイム労働者、低賃金  
日本人労働者は高齡の女性が中心  
(若い日本人の働き手の不足)  
勤務時間が不規則、時に早朝から深夜  
にまで及ぶ

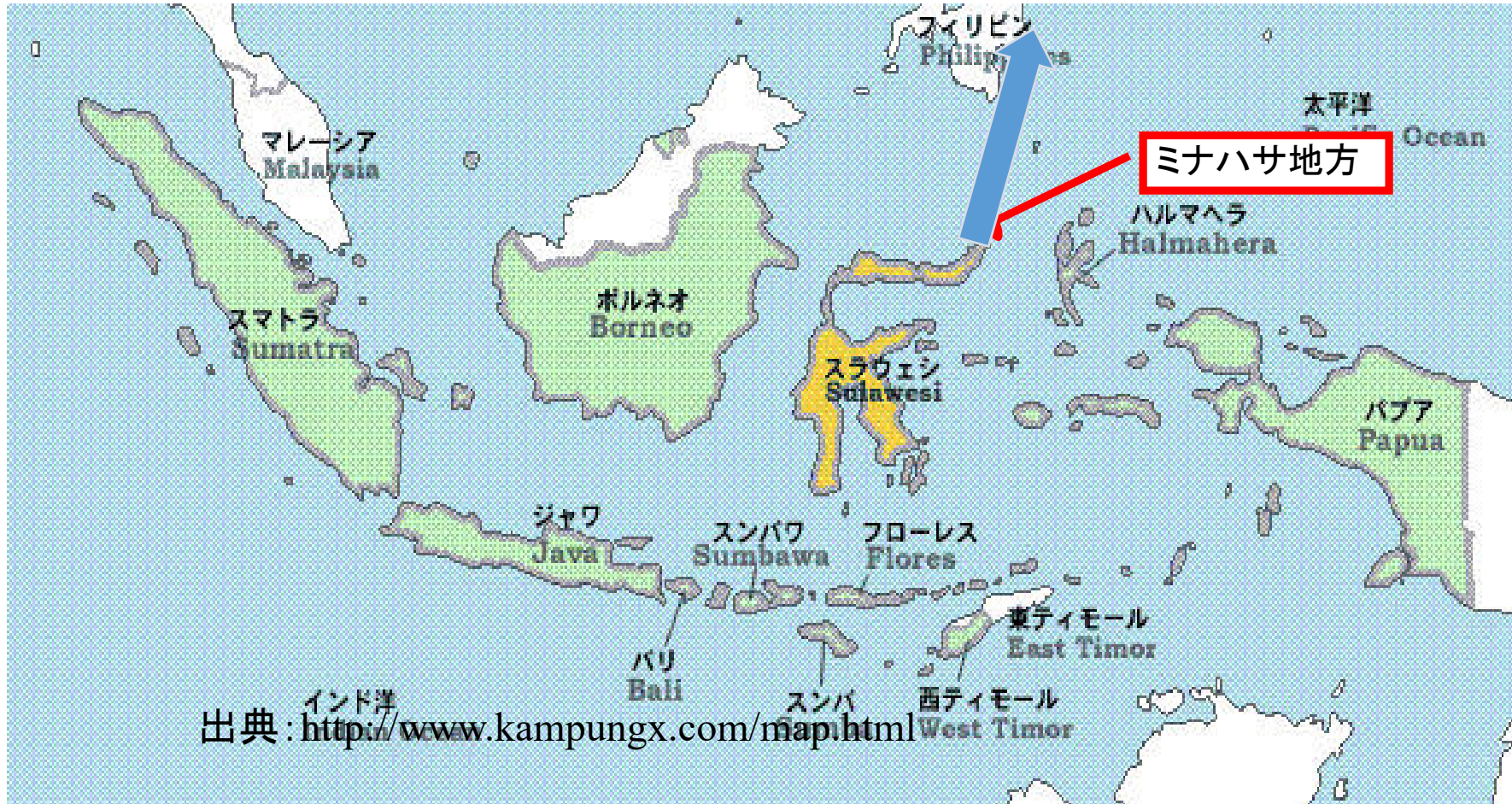


# フィールドの背景

移住労働者の故郷、ミナハサ地方

# 北スラウェシ州ミナハサ地方

日本、韓国、アメリカ  
への移住労働



# 州都マナド市内からの眺望



# 日本人墓地(戦前の漁民、商業移民やその家族、軍人らのもの)



# 移住労働の成果(大邸宅)





# 日の丸の装飾



# アメリカへの出稼ぎ帰り



# OARAY (大洗) 商店



# 乗り合いバスの窓ガラスに Oarai(大洗)！





# 旅行代理店経営





# 飲料水の製造・販売



# 淡水魚の養殖ビジネス



# レストランICHIRO(イチロー)





こちらはAichiken (愛知県)



# 市場内で家業を商う人



# ミナハサ地方の鰹節工場 (賃金: 240万ルピア ≒ 20,000円)



# 移住労働へ <push要因>

ミナハサ地方



日本  
韓国  
アメリカなど



# 大洗コミュニティの生活世界

# 復活祭(イースター)の余興: 綱引き



# 日本で生育する子どもたち





# クリスマス礼拝



# 子ども向けの聖書勉強会



# 町の夏祭りでの民族舞踊披露





# 迎賓の踊り





# 大洗コミュニティ成立の経緯概略

- 1992年に2名のミナハサ地方出身女性が大洗町に来て、水産加工会社で働き始めた
- その後、水産加工会社の要望に応じて上記2名が友人・知人を呼び寄せた
- さらに、インドネシア人各自が国から家族や親戚を呼び寄せようになった

**大洗町への急激な移動と定住が始まる**

# 本報告の目的

- 大洗コミュニティ成立の経緯について明らかにする。
- 同コミュニティ成立後の展開と現況について、問題点にも言及しながら紹介する。

# 方法および特徴

- ・インドネシア人社会の成員たちによる記述、語り、関与者の証言を元に構成する。

\* 聞き取りで用いた言語は日本語、インドネシア語（一部現地語）

# 先行調査・研究

- 常陽地域研究センター(2002)「外国人労働者と地域」の特集記事の中で、大洗町にインドネシア人の集中が見られることと、その背景についての紹介がなされる。
- NHKクローズアップ現代「密着 外国人就労者の3ヶ月」(2002年11月28日)が放送され、大洗町のインドネシア人労働者受け入れの状況と課題が紹介される。

- 目黒（2005）やリワント（Tirtosudarmo, R. ,2005）の中でも大洗町におけるインドネシア人社会の成立について簡潔に述べられている。
- しかし、大洗町のインドネシア人社会の成立の状況を明らかにし、その後の推移を追ったもの、インドネシア人社会の成員の視点を交え、その語りを前面に出した研究は管見の限り見られない。

# 報告者の背景について

- 2000年から3年間、国際交流基金の派遣でインドネシアに赴任。州都マナド市を中心に北スラウェシ州の中等日本語教育支援活動に従事

→インドネシア語で日本語学習などに関するインタビューが行える。また、移住労働者の出身地についてある程度の社会文化的知識を有する。



# インドネシア人社会の成立

## ・フィフィさんの語り

フィフィさん(仮名):日本人の夫と結婚して1976年来日。夫は漁師。当初は石巻に居住し、1978年に大洗町に移住。日本国籍取得後夫とは死別。前夫との間に3人、再婚した夫との間に1人の子どもがいる。

→大洗町に定住した最初のインドネシア人

# フィフィさんの語り

(文中フィはフィフィさん。Aは報告者、Bは共同研究者)

A: 1978年の何月にここ(大洗町)に来たんですか？

フィ: 何月忘れた, 覚えてないですね

A: そのときは, ほんっとうに外国人はじゃあ

フィ: いないです

B: 全然いない? A: 最初?

フィ: ぜんっぜんいないです。私最初

A: フィフィさんの次に来た人は誰ですか。

フィ: ディアナさん, フェルマ\*さん \* 仮名

A: ディアナさん, フェルマさんね? ...この2人は東京から来たんですよ。東京のインドネシア料理店で働いていたんですよ? ...

フィ: そこで働いてたんじゃないんです...

私が知ってるには, この人たちは東京のブローチを作る会社で働いていて, ...ディアナとフェルマさんはそれからここに連れてきて, 大八(水産加工会社)に, それから大八の社長が私を呼んでその2人に会わせたのね, そのブローカーがここに紹介して, (2人が来たのは)そのブローカーさんたちと一緒にだよ...

ディアナさんたちが来るまでは, フィリピンとかタイとかブラジルとか...

A: ディアナさんとフェルマさんが来て3人になった。

フィ: そうです。そんで、また、2人の男の人が来て...フェルマさんが、やっぱ、友だちかな、同じ村の人だから

A: フェルマさんってカレゲサンの人？トンセア\*の

フィ: そう、その男の人もトンセアの人、ここに来る時はじめてはみんなトンセアの人たち、この大洗町に来てるインドネシア人、みんなトンセアの人...それから徐々に違うの人から入ってきて

\*ミナハサ地方東部の地域(カレゲサンはその一つの村)

A: 途中からはたぶん東京じゃなくてインドネシア、大洗と

フィ: ああ、この人(ディアナ、フェルマ)たちの親や兄弟がいたから直接来られるようになったのね。働いてお金を送ったりとか、働いたら？日本とか、で直接に来ます。たくさんよ、たとえばダンナは大洗へ来て働いて1年ぐらいお金貯めて、奥さんが来て、また夫婦で働いてお金貯めて、で、また子どもも呼ぼうとかね...もう、みんな親がいるから、アパートもあるだから...ひとり帰って10人来るだから

# インドネシア人自身の記述

「SEJARAH SINGKAT JEMAAT DI CUCIAN BESAR」から

- 町内で最初にできたインドネシア人教会が配布したインドネシア語文書（A4,2枚）
- インドネシア人社会成立の事情を知る複数の成員によって記された
- インドネシア人教会信者の活動についての記述が中心



# 記述例

...(前略)ミナハサ地方出身者が大洗を住みやすいと感じるいくつかの要因としては、町が海に近く、彼らのふるさとと大きく違っていないことと、魚の加工の仕事が彼らにとってなじみ深いものであることがあげられる。そうしたことからミナハサ地方出身者が続いてやってくるようになった。

# インドネシア人社会成立の経緯概略

- 1978年にフィフィさんが移住
- 1992年に2名のミナハサ地方トンセア地域出身女性が東京から大洗町に来て、水産加工会社で働き始めた
- その後、外国人労働者を求める水産加工会社の要望に応じて上記2名が東京およびその近郊で就労する友人・知人を大洗町へ呼び寄せた
- それ以降は集まってきたインドネシア人各自が国から直接家族や親戚を呼び寄せるようになった。  
→インドネシア人の流入→インドネシア人社会の拡大

# 関与者の語り

■町内の水産加工会社社長(当時)A氏\*の語り:

(大洗町でインドネシア人が増えた原因について)

そんなに難しくないと思うんだけど、単純にね、就労が簡単だった、それと、アパートなんかも結構ありましたからねえ。えっと、その2つじゃないですか

\* A氏は大洗町への日系インドネシア人受け入れの中心人物

# インドネシア人社会：その後の展開

- ・日系人の流入

1990年の入管法改正によって「定住者」という在留資格が新設→日系南米人の流入が始まる。

この制度を活用して、A氏（前出）による日系インドネシア人の受け入れが始まる。



1998年～2005年に日系人180人を町内20の企業に紹介



\* インドネシア人の外国人登録者数のピークは2002年（533人）。実数はその倍以上ともされる

# 大洗町の日系インドネシア人

- ・ミナハサ日系人：戦前（主に農業、水産業に従事）・戦中（軍人）・戦後の移民（技術者）の子孫。
- ・父親が日本に帰った後、現地女性の母親とともに現地に残された子どもたち（2世）や孫たち（3世）



日本への移住労働



# インドネシア人社会の変容・現況

- ・非日系インドネシア人労働者の減少

不法就労者の摘発の強化

リーマン・ショック以降の不景気の影響

震災・原発事故の影響

非日系と日系インドネシア人の結婚



日系インドネシア人コミュニティ化

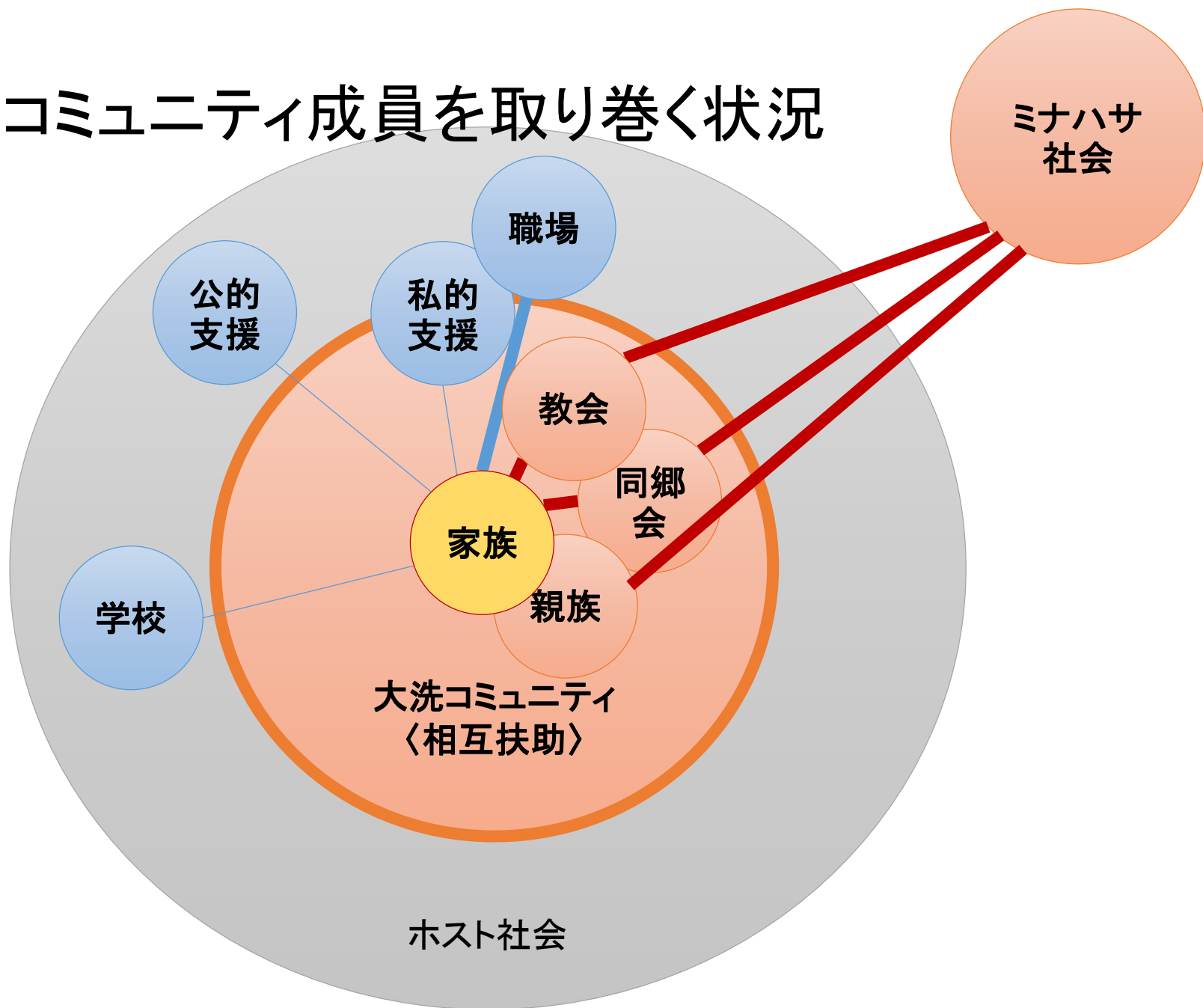
# 出稼ぎから定住へ

- 日本における子育て→子どもの生育(家庭内の言語と文化のバランスの問題)
- 永住権取得の動き
- 帰国後の生活への不安



一方で、震災・原発事故後の対処に悩みも

# 大洗コミュニティ成員を取り巻く状況



# 震災による影響：インドネシア人教会 (2011年当時)の外観



# 今後の課題

大洗コミュニティにおける言語習得・言語使用に関する調査を継続しながら、変容しつつあるコミュニティのありようを成員自身および関係者の語りによって明らかにしていく。

- 1) 帰国した成員を対象にした聞き取り調査：成員ひとりひとりにとっての大洗コミュニティ
- 2) 成員ひとりひとりのライフヒストリーの集積

# 参考文献

吹原 豊(2011)「変容するエスニックコミュニティ—大洗町における定住インドネシア人共同体の事例—」  
2011年10月『地域文化研究』第10号、65-86  
<http://www.or2.fiberbit.net/kashima/pdf/10.pdf>